

指導講評

共栄大学教育学部教授 光野公司朗先生

大きな財産になる授業。一つひとつの授業が高いレベルであった。その理由の一つとして3つの授業が全て国語科であった。また、活動が目的になっておらず、言語能力が目的になっていた。

国語は科学であり、系統性と発展性がなければ意味がない。教材内容自体には意味がない。領域もつながっていないと意味がない。国語の文章で独立した单元など一つもなく、螺旋的である。自動車比べは海のかくれんぼとどうぶつの子とつながっていいないと意味がない。その本質を捉えた授業が3つともできていた。

国語科の教科の目標はよりよく日本語が使えるようになることである。2年生の授業数の総時間は910時間。そのうちの315時間で国語科をやらなければならない。国語科では2つ教える内容がある。1つ目は漢字などの言語事項、2つ目はこれまでに自然に身についた国語を学び直すことである。日本語が母語である日本人は、日本語を使って思考している。思考は物語的に考えるか論理的に考えるかのどちらかであるから、日本語が上達することは思考力に繋がる。国語科と最も近いのは体育で最も遠いのは道徳である。国語科で思考することは1・2年生順序、3・4年生段落相互の関係、5・6年生事実と根拠に分けることである。5年生では論理ができているため、エビデンスを強めるための表現が大切。

研究協議 低学年ブロック

仮説1 児童が見通しをもてる課題を創造し、論理的な思考を引き出す発問をすることで、児童は深く考えることができるであろう。

【手立て①】 単元を貫く学習課題の創造

- ・児童が論理的思考を必要とする学習活動を教師が創造し設定する。

【手立て②】 発問の工夫

- ・授業や単元の中で、時間（いつ？）・空間（どこ？）・論理（順番は？どうして？）を意識した発問をしていく。

仮説2 論理的思考に触れる機会を多く設定すれば、児童は深く考えることができるであろう。

【手立て①】 スモールトーク

- ・授業や単元の中に簡単な話題で児童同士が話し合う時間を設ける。安心して自分の考えを伝え合える学習環境を醸成する。

【手立て②】 国語コーナーの設置

- ・これまで扱った、説明文の論理構造を明確にした資料を教室内に掲示することで、児童が学習中や生活の中で論理的思考について振り返れるようにする。

<協議会>

◎仮説1について

- ・教師が提示した「一般→特殊」の並べ方の中で、考えたやり方が一番良かったのではないか。
- ・ある程度の例示がある方が、国語に効果的な考え方ができるのではないか。
→一年生の発達段階としては、ある程度の流れを示すやり方が良い。
- ・「一般→特殊」という土台から、児童それぞれが思考したものができていた。

◎仮説2について

- ・日々のスモールトークが、児童の発言を活発にさせていた。
- ・スモールトークによって、自分の意見を言いやすい環境ができていた。

◎その他

- ・「話す・聞く」の分類に入るのはではないか。→並べ方を考える段階は「読む・書く」。
- ・書くために読んでいるので、「読む・書く」
- ・「一番大切な車はなんですか？」→根拠のある意見が出やすいのではないか。
- ・「日常生活に一番必要な車はなんですか？」
- ・この1時間の評価は「話す・聞く」で良いのではないか。最終的には、話したり聞いたりしたことを生かして「書くこと」につなげる。

<指導・講評> (志木市教育委員会 学校教育課 今直子指導主事)

◎国語とは言語事項・言語活動を通して指導事項を指導する。「この力を必ずつける」と思った力がついたかどうか。

導入から生き生きと伝え合う姿が見られた。伝え合う活動(スモールトーク)の継続が子供たちの力になっている。先生の見本が良かった。1年生なりに先生のお手本に近づこうとする姿があった。1・2年生の肝となってくるのは「時間・事柄の順序」。今回授業で自分が見たことがあるものから見たことがないものの順序で考えている子がいてとても上手だった。さらにつきつめるとしたら特殊から一般ということもあり得た。事柄の順序は根拠があればもっと色々な順序を考えることができる。

研究協議 中学年ブロック

仮説1 国語科の授業の中で自分の考えをもち、それを伝える支援を行うことで、自分の思いを伝え、そこから深く考えることができるのではないか。

仮説2 話し合いを通して自分と友達のことを比べることで、より考えを深めることができるだろう。

【手立て①】 付箋を使い組み立てを考えさせることで自分の考えを明確にさせる。また、伝え合いの活動によって自分の考えを変えたり、変えなかったりすることで自分の考えをより深める。

【手立て②】 思考を整理できるワークシートの活用。

【手立て③】 国語コーナーの活用。

<協議会>

◎手立て①について

- ・活動の手立て(付箋)としてはよかった。
- 深め方や児童へのかかわり方は、教師側が教材研究をして、もっとこうすれば深まるということを考えていかななくてはいけない。気づかせるための発問を工夫していかななくてはいけない。

◎手立て②について

- ・どのグループも自分の意見を言っていたわけではないが、自分の意見とは違うということにも気づけた児童がいたのはよかった。
- ・一人の児童が「こうでいいよね」と話を進め、こうでいいよねとなって話し合いが淡々と終わってしまうこともあった。
- ・比較して、深く考えていかせるためには、ほかの教科でも行っていかななくてはいけないのではないか。傍観者にならないための手立てを考える必要がある。
- ・自分の考えを手札としてもって話し合える活動を多くしていく。

<指導・講評> (志木市教育委員会 学校教育課 今直子指導主事)

今回の授業は分類・整理が肝であった。本時のめあてでもあったおいしく食べるための工夫で分類・整理は難しさを感じた。分類・整理の中には視点がはっきりしたものと視点がはっきりしていないものがある。グループ活動の良さは協働的に学ぶことで課題は個で始まり個で終わることができないことである。個でグループ分けをしてからグループで分けても良かったのではないか。

研究協議 高学年ブロック

仮説1 他者との意見の共有や比較をさせることで、自分の考えを深めることができるだろう。

【手立て】 国語科の授業の中で自分の意見をしっかりと持たせる指導をする。

→「ぼくのお父さん」の活用

- ①「ぼくのお父さん」を通して論理的な構造を理解させる。
- ②「固有種が教えてくれること」の論理的な構造を読み取る

仮説2 話し合いを通して自分の意見に立ち返ることで、深く考える力を育むことができるだろう。

【手立て】 思考を整理できるワークシートを活用する。

<協議会>

◎仮説1について

- ・ぼくのお父さんがあったことで、事実と考えを分けて考えようとするきっかけになったのではないか。
- ・友達の考えを赤で書き加えることで、自分や友達の考えを比較して、自分の考えを振り返ることにつながっていた。

◎仮説2について

- ・資料から分かること、資料から考えられることの項目が分かりやすかった。しっかり子どもたちも、事実と自分の考えを区別して書くことができていた。
- ・話し合いの後、自分の立場を明らかにし、なぜそう考えたのかを根拠を書かせる活動が、より話し合った内容に深まりを持たせていたと思う。
- ・単元を通して身に付けた読み取り方を、活用できる場面を確保するとさらに子どもたちの力が身につくと思う。

<指導・講評> (志木市教育委員会 学校教育課 木内指導主事)

子どもたちが自分の考えをしっかりと持っていたので、それを友達の考えと比較したり自分の考えを広げたりすることができていた。

・ワークシートについて

ワークシートにも友達の考えを残す工夫をしていた。友達との伝え合いを通して考えが変わったのが見えるようになっており、資料の見方が変わったのが分かったので活用は有効であった。教師のひとつひとつの切り返しがよかった。授業のスキルは三小の教員の参考になる。授業の目標は国語科としてどの指導事項と関連しているのかしっかり押さえる必要がある。学習を生かして資料の読み取りができていたが、資料から自分の考え(主張)を書くのではなく、自分の考え(主張)から適切な資料を選んで活用できるようにすると、学習指導要領で求められている資質・能力の向上につながる。